資料２

平成１４年１１月１９日

政策の体系化（いわゆる「政策ツリー」）に関する論点整理（案）

企画評価課

１　現行の政策評価システムは、農林水産行政の基本となる食料・農業・農村基本計画等の進捗状況を実績評価方式により検証することを旨として、当該基本計画等に基づく政策分野、目標の設定等を行い、定量的に政策効果を把握することにより評価を実施している。

２　しかしながら、現行のシステムにおいては、政策分野が並列となっていること、各分野間、各目標間の関連が明示されていないこと等に起因して、国民的視点から農林水産政策全体の成果が捉えきれない、個々の政策分野の評価とその結果を踏まえた個々の政策の見直しに留まっているため、上位に位置する目標の達成状況等に照らし真に必要とされる政策か否かを検証・評価すべきとの指摘が政策評価会よりなされているところである。

３　このため、前回（１０月４日）の政策評価会において実績評価の実施に当たっての政策の体系化（いわゆる「政策ツリー」）について議論をいただいたところであるが、前回の政策評価会における主要な論点を整理すると、以下のように整理できるのではないか。

（１）「政策ツリー」を構築することについては、

①　政策の是非を最終的に判断するのは国民であり、政策全体の意図や評価の結果を国民にわかりやすく説明することによって、政策の企画立案過程や実施状況に関する透明性をより一層高めるとともに、国民の声をより的確に行政に反映することが可能となること

②　政策分野間、目標間の関連や位置付けが明確化されることによって、施策の有効性の検証や政策分野・目標間での優先づけが可能となるとともに、部局間の連携を確認しつつ効率的な政策運営を図られることが期待されること

から、政策評価の目的に合致するものであり、また、政策のマネジメントサイクルを確立する上でも有効な手法と考えられることから、その構築を推進すべきではないか。

（２）「政策ツリー」については、食料・農業・農村基本計画の基本理念に即して、上位目標を設定しその評価に必要な下位目標を設定するという順序で演繹的に目標の階層化を図ることにより政策の大目標、中目標を設定するとともに、これらと現行の政策分野、政策手段との関係を示しつつ、評価を行うことを目指すべきではないか。

（３）「政策ツリー」の構築の基本となる現行食料・農業・農村基本計画については、

①　食料自給率を頂点（大目標）とする政策体系がとられているが、施策相互の関係が明らかになっていないこと

②　食の安心・安全の確保に係る問題等、情勢の変化を踏まえて政策課題の積極的な取り込みを図る必要があること

等の問題があることに留意する必要があるのではないか。